比翼連理花迺志満臺二編巻之中

東都　松亭金水編次

第九回

あづまの豊嶋邑なる髪結のお吉は後のなさぬ中むつまじくお菊が父の恋情を秘しめ胸むやくやと業煮してその日ハまだき家よりかへれバ[illegible]一も[illegible]独でなにやら吻くと咡きながら燧袋を出して[illegible][illegible]へそ[illegible]てへノウ人を戯にして[illegible]が

ちげやアかゝ手（ひ）で浮の殺人ヨ誰（だれ）ぞ来（こゞ）でもぶつかけまア
し殺人の無口（むくち）が云（いふ）そうよ廻（まはり）しかる毎うゴト対手（あひて）もある
きこふ一人（ひとり）でおれ迄ゆへ酔（ゑひ）うちつけく附木（つけぎ）まよう法し
むつと起（おこ）し消炭（けしずみ）を火鉢（ひばち）へいれてふきつけて持（もち）
出（だ）しゐる徳利（とくり）と銅壺（りんろぐ）やがて茶碗（ちやわん）へ注ぐ酒氣（きけ）息（いき）を
もつくぞ咽喉（のどか）しくつゞけて二ツ（ふた）三ツ（ミ）ぶ徳利（とくり）のかぎり
自棄（やけ）酒（ざけ）によ乙（つ）ゝして蒲団（ふとん）ひきかぶり前後（ぜんご）も知らず臥（ふ）し
きりしい女子（をなご）の西為（ゑざ）といゴ人（ミ）ざりき起（く）そまでり七八（しまつきあ）

目（もち）ハ活業（しやうばい）にも出（そ）ずして朝（むき）からの茶（ちや）まん酒（ざけ）らけ次（し）
身に人（ひと）紙呼（よび）まいて番（そ）とりかゝも漢（まい）つかくまるね
くぜ紙寒（またじさ）ゝよ世間（せけん）むき見しや男（を）のうへなるしもるが呼（うち）
ゐても心（こゝろ）のうちハいの彼間（ま）おはず（ず）くるいおはなも待（まち）うけるが
来（き）そうなものゝ気根（きう）しくさるゝべ乱（みだ）くと腹中（はらのうち）に思案（しあん）
して待（まて）ども絶（たえ）く音信（おとづれ）なしちや七八日過（すぎ）けれバお
吉（きち）ハ宅（いへ）へたち出（そ）て浅草（あさくさ）へいそぎ行くおはなが（ゐえ）重（ろ）の門（か）
拵（ど）ようちのしや出（で）ちうと待（まて）ども来（こ）ずそのうくと是（うし）

覗（のぞ）き見えしが門戸（かどぐち）を立て人（ひと）も見えざる容子（ようす）に不審（いぶかし）く
さらバ引鐵（ひきがね）をそつと側（そば）なる人（ひと）に問（とひ）けれバ[illegible]
ありといふにより聞（きく）さへ流石（さすが）娘（むすめ）にも身（み）をしむ忘（わす）
り怖（おそ）ろしく急（いそ）いで家（いゑ）に立ちかへり父（ちゝ）に委（くは）しく告（つげし）
性質（うまれつき）躰（むね）しあらまほしが悔（くや）しさふ彩（い）んであとど何（なに）とぞ
なく此身（このみ）を怨（うら）みハせねり思（おも）ひつゝねうちこそ病気（びやうき）
涙（なみだ）けま懲（こり）ずまきければ気（き）よかゝると人（ひと）こそ志（こゝろ）ね猫（ねこ）のうち
使（こころ）ようらね行（より）こそあまま雲紫（せくさ）の声（おと）もいうあしく膝子（せきど）

ぐずりつまと　敵役強六「ヤア　若人うちふみなさるまで　落
業からう悔るめ人かと思ひ〳〵さ　吉へ「ヨヤ良将も知るみえへ十二
此ごろハ子　落業よも　出来ませんヨ　強へ「ホヽナ　今宵が　万と　出来さ
とみえるナ　吉へ「さあ〳〵さ地面のあがりと発会で法かふのふ
儲りませんヨ　ヨ申〳〵　強へ「ありやど〳〵きいけいぞ　何ぞ
ちりと駕籠で旅人か　吉へ「ハイ　おまち申ませう　酒を買てあり
ますすし　お思ひ出　何といつませう旅人　強へ「左様なら料理
割膳に吸物のそまつせん　ある〳〵ヤア　春のあるにハサ　吉へ「そん

あつら挑灯(ぢやうちん)紋(もん)がいひ付(つけ)て参(まい)るから御主人さん帰(かへ)りながら

とほへ火(ひ)の残ばんと発(おこ)しておいておくんなまし　藤吉ト　羊羹(やうかん)

〳〵コウお吉(きち)さんよしろ嘘(うそ)ざアちつとばかり[illegible]が奢(おご)

らふヨト紙入(かみいれ)より百疋(ひやくぴき)出してつかはしお吉(きち)へ〳〵[illegible]が[illegible]

おのうく　吉へ大三百よふござゐますヨ　藤へ[illegible]俗さ持(もつ)て往(ゆき)て呉な

吉へアレサゑくばうでも今(いま)からだとよふござゐまさアネト

出(いで)てゆきしが程(ほど)もなく跡(あと)への来(きた)るまでハお吉(きち)も[illegible]

より[illegible]の受(うけ)ざらを持(もつ)てかへり来(きた)り　吉へ挑灯(ぢやうちん)火(ひ)の熾(おこ)り

ますへ　モウ今日ハ　米　酒（さけ）ざといはく　何（なん）にもありませんヨ　とまま御膳（ごぜん）をたきさい　吸（すう）のふげび　葱（ぎう）どしくまり まするへ　徳「なんだ　吉「あつて此膳（ごぜん）をさい　誠（まこと）におかしいん あのサ　徳「まるめの附焼（つけやき）ヶ　吉「ナアニ　天麩羅（てんぷら）でござりますヨ　今（いま）こそましてるまどふう茸（おいし）そうろま　揚（あげ）て居（を）りまするよ 些（ちつと）でんがり　徳「ムヽ　その川ア鰻（めう）ぎサア　蝦（え）綫つけねへ　吉「アイ 附（つけ）ませんヨ　アア　おまへさん　お鍋（ナベ）でもおとんなさいな　徳「ムヽ そふ悪や　廿二ト　鰻（そうめ）紙葱（ねぎ）をまぜより　火鉢（ひばち）をきうしむつひ

めいへ桐のおさへと盃(さかづき)の数(かず)をかさねるまでよろちりと酔(よふ)て起(おき)もおもしろく双六(ごうろく)を数枚(ちやうづえ)しく　おき吉(きち)が顔(かほ)へ紙うちたるがめ

後「コウ　おき吉(きち)さん　おめへと云(いふ)合図(あひと)しとるを懐(ふところ)やさしく

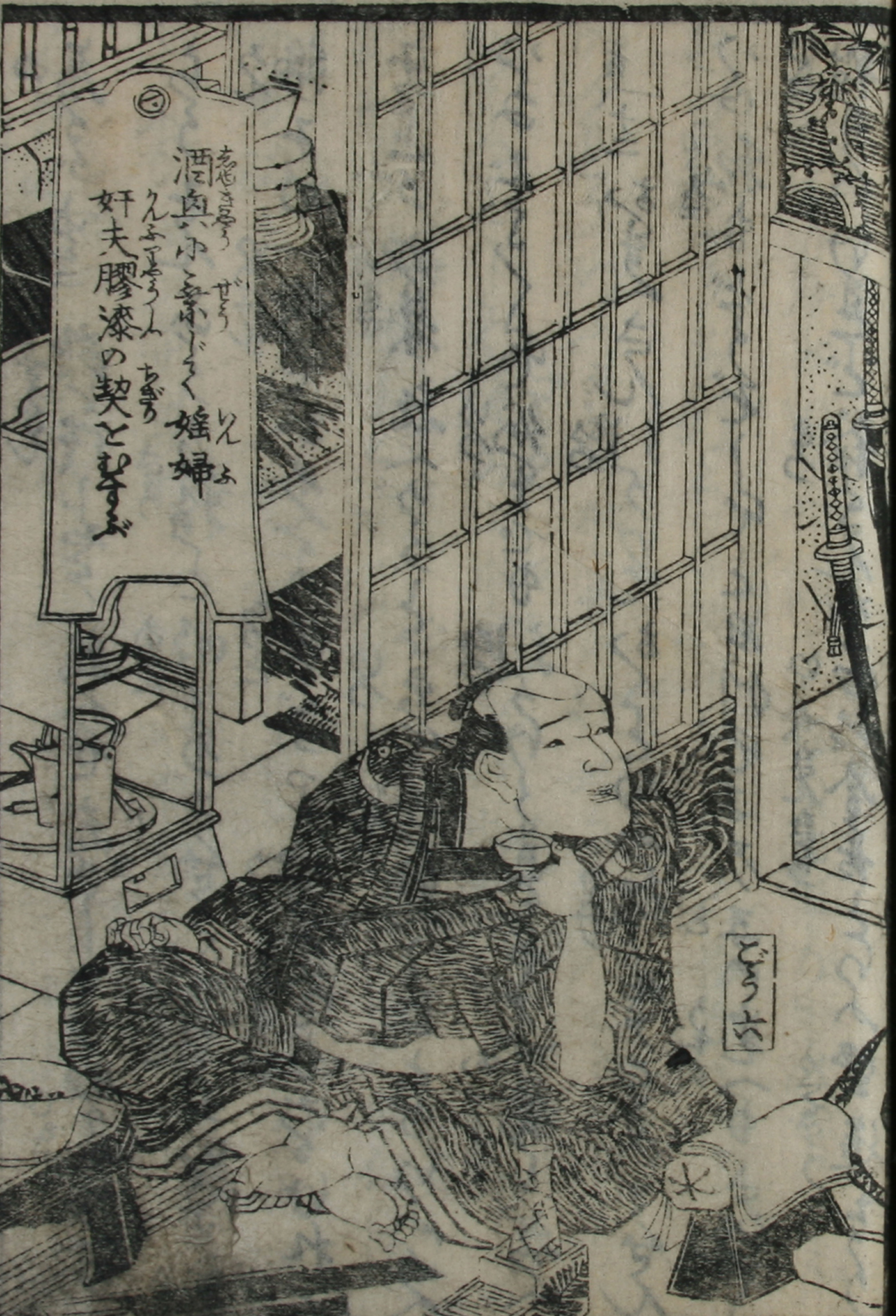
なけ門てけ今路(ふまえどめ)てえてあそばよりのなるも旅人(たびびと)がおめへも腰(よう)

わどし言(いひき)ぢヨ　まだ三十(まえぞう)にたるやならずもの縁(えん)遠(とほ)いなる

気(き)のみの紙ひとり寝(ね)うんと云(いふ)惜(をし)へあのごろアおのぞ

おまへこそ寡(やもめ)るまい門弥(ゑへいよ)良人(をつと)の二三人もあるだらうヨ

吉「アレサよしておくんなさいそりやアモし周挑灯(びやうぶてうちん)とちから


酒肉ハ小宗じく婬婦
奸夫膠漆の契をむすぶ
どう六

ぬ居るが　重二「冗談(じやうだん)じやアねへぜ　あゝ一モウ出来(でき)ねへのさ

らう　そんなら左様(さう)と前(まへ)からしらせてくれゝば是(ぜ)がひこゝろ

ゑ縁(ゑん)その一件(いつけん)でおめへは些(ちと)ばかり貸(か)した金(かね)もあるけれど

それだが出来(でき)ねへからとて今(いま)けへしてくれともいはねへ

いはねへぜうくで給(いろ)までも引(ひき)うけてはまたちやア可愛(かはい)ねへ

吉「十二　おまへさん引(ひき)うけておくとのお訳(わけ)じやアござりません

いゝゑ私(わたし)もどうぞしてそれで子アノ子の宅(うち)へもよびく

藤二継さんけれども親爺(おやぢ)さんの律義(りちぎ)な者といふ堅造(かたぶつ)あり

當人（とうにん）も年（とし）がいかぬゆゑ縫（ぬいと）よ稽古（けいこ）もまゝならぬのみ道具（だうぐ）

を国姫（ひいさま）ちりと勘當（かんだう）しられかくれ家へト一家（いつけ）

のがるゝよりその親方（おやかた）は歌妓（げいしや）になれとのくるめし

ひよつとしたく強情（ごうじやく）よ出金（たま）をまうし物（もの）でもおもしろくしく

時（とき）に言號（いひなづけ）ありしと夫（をつと）の平氣（へいき）にかへて色うすくもむの内（ところ）へ

酒（さけ）の酔（ゑひ）さへいろうましと醒（さめ）さまぐゝと付（かこむ）込（こ）くし辞（よわ）

さぶり言「アレサ旦那（だんな）アノ何年（なんねん）も勤（とき）が義理（どうり）ござよサアゝ

んな性（とゞく）ばかりおり高ぶらぬと言ツ一ツ（ひと）おかめがんなきへ

よ下宿勧進婆張六(ぢやうろく)が膝(ひざ)のまへへ身(み)をよせて盃(さかづき)さし
せがまるゝもうるさく甘垂(あまつたれ)よろうろ酒(さけ)をうけあたゞらく呑(のむ)
を旨(うま)そうんねどよまるや勇気(ゆうき)の権之勝負(きざみやうぶ)を見(み)るんくあり
て降(ふる)雪(ゆき)に綿(つゝ)衣(みの)張(はり)よろ川(かは)でくゝ急(いそ)ぎ酒(さけ)のめ彩(いろ)燭(ろう)らへ
喜(まくの)向(うち)よろこのまゝ張六(ぢやうろく)が「ヤア太鼓(たいこ)持(もち)の名(な)ふる大(おほ)かぶ
せめて来(き)てドレあまり酒(さけ)のみ過(すぎ)へうち帰(かへ)らうお吉(きち)さん
傘(かさ)が一本(いつほん)かしてくろ吉「アイ傘(かさ)も下駄(げた)もありませんけれど
其代(そのかはり)おまへさんお帰(かへ)りなさるまでのう子どもせまちう

なぜア手前(てめへら)ア一日(ど)何処(どこ)へか酒(さけ)のみあるきおらうし放蕩(さう)

まそると野郎(やろう)ども一個(ひとり)できをしめつゝ今夜(こんや)はお泊(とま)りなさ

きのふあまり平居(ひごろ)とまる住(ゐる)ゐる仮宅(かりて)へでも往(ゆ)きとおり

あやまるぶらりがその仏(ぶつ)堂あてがやアお頭(つむ)もいつそ歌舞伎(げつや)

がらりへ瓢箪(こまち)がいつしよまんまとト膳(ぜん)をかけるこ三味線(しやみせん)とる

三へ一声あんぜおもしろ(ざ)きへヨ　後へおもしろくすまいし鬼人を(ところ)

いつさ銭一文(いち)笑(き)ての　吉へ野郎(こまめ)がとらのいちや

ドニへふるさと里(ゆき)の酒ものくしつまらしがさと

とけて寝(ね)し夜(よ)はうきしころ

吉「ところへちゞみでござりますヨトあるくと衣(を)かへし
情(なさけ)の園(その)めと道六(どうろく)ま酔(すいどう)まで道ありくだそれとして
又(また)気(き)も變(かは)ようきたちくかくる路(みち)えのまするうり
とかくさとるアふ夜(よ)もあけて情の寝(ね)覚遠(とを)くなきとめられ
酒(さけ)さへも尽(つき)ければあま酒(ざけ)そそを一斤(きん)買て評判(ひやうばん)の豆より
引出(ひきだし)其(その)布團(ふとん)は一ッ夜着(よぎ)二ッかさねて枕(まくら)方に二枚
屏風(びやうぶ)の隅(てう)つゞきまゐれは縁(えん)のもじやとえ絹(ころ)ま推せよ

通客（とうかく）がへ　おんごおかみさん　枕（まくら）なんぞ二ッおくれ　どうぞ
まするのざる　色男（いろをとこ）でも来（く）るのか　吉へ　アイサ　私（わし）が色（いろ）が今夜（こんや）
泊（とま）りに来（き）ますのサ　通へ　そふかやア　其（きやう）か其のイツその色（いろ）
男（をとこ）といふのハなんざん人（ひと）ざ　長へ　アノお屋（や）しきのお若（わかさ）でござ
うまいことゝりのいゝ情（なさけ）がふかい人（ひと）でございますヨ　あつし
私（わたし）きやア　頼（たの）もしく　惚（ほ）れてのぼせますが先（さき）の人（ひと）も私（わた）ん
実（まこと）に惚（ぞつこん）でまちかねる鳴（で）てアよりアかまいはしません
あの衆　通へ　十二　先（さき）の人（ひと）も誰（ずつぶ）かれもちやアめるどらうが顔（めん）

まり心易(こゝろやす)くなり過(すぎ)ると郭(くるわ)をちらぐ歩(ある)く手紙(そえるよ)の
いそれまで拵(こしら)くのざうろ支(ちはと)でざらうアその人(ひと)を
ざんる人ぞ　吉「それ其処(そこ)知って居(ゐ)まんト　いゝまして蔵六(ざうろ)を
猶(むすこ)どきつく　蔵「ドレ何処(どこ)知らよ　吉「コレ是(これ)でござへまんよト
蔵六(ざうろ)が鼻(はな)のさきをちよいと撮(つま)む　蔵六(ざうろく)へなやかまり
うるさく　蔵「とまサ　そんなよ人(ひと)代まぐを掴(のの)じやアねく
男(をとこ)とろしめがト　その戯(たはぶ)までも弱(よわん)気なくせずて屏風(べうぶ)の
うちにいゝを宴(えん)るまいぞやかつらじのむ川ゞ(ど)浩める

夜半の鐘ならさじとぞありけるしかして後藤六左
枝をならしとおのひくうあきにまぶこそいすちき具すぢ
年増の手どりぞと名をさへ申さき髪結の吉三
手代にうけとまりく廣の世界ま御吉より妹よ女子
のがれぬとまで迷ふものゝ手ずまよつけいを合わ
のみふ蕩て御吉の藤六か絲ぶかれより藤六も
身躰はくして金ありしまゝ大金をかゞえぬ情も失
いとど後々の始への金をきゝするあり身を損じ大小家財など

まで憂(う)き落くし お吉(きち)が方(かた)へまとひて来たりぬ 困窮(こんきう)あられより主君(しゆくん)よりの預(あづか)り金子(きんす)を使ひ込み自分(じぶん)の引(ひき)負(おひ)となりしかバ重役(おもやく)のものこれを糺(たゞ)しきびしく罪(つみ)よも行なはるべきを千葉殿(ちばとの)格別(かくべつ)の仁慈(じんぢ)をもつて追放(つゐはう)せられけれバ藤(とう)六へ今(いま)さらに身(み)を落着(おちつけ)べき所(ところ)もなけれバお吉(きち)が方(かた)に来(きた)りて食客(かゝりうど)となりゐしかバお吉(きち)ハ女(によ)どもの藤(とう)六が性(せい)あまり悪(わる)きこゝろ娘(むすめ)のきまゝハ納(おさめ)も使ひ出(で)て継(かけ)がへぬ金数(あらた)なれどよ藤(とう)六をたのうちに

薄情なるよしとおもひながらも今は何方へ身を寄ん
よるべきえん歎きかなしさに形なき日を送りけり
作者曰近曾お[illegible]ひの女世間にあまた
色情甚しく男子を蕩し大に金銭を貪
とりその盡るときは拒んで再び顧る事
なし全く遊女あそびの所為にあるしといへども
遊女へ馳るものといへるは小娘より承知して
色よがり中へふその罪も浅かるべし素人めかしく

人(ひと)と生(うまる)れまして利欲(りよく)の為(ため)よりして殺(ころ)して
俗(ぞく)の情(なさけ)をもかねハその罪(つみ)に沈(しづ)まん事
且べ男子(なんし)として這般(かやう)の婦人(ふじん)に蕩(たぶらか)さる
るなかれと是(これ)もまた作者(さくしや)が老婆心(らうばしん)のこと

第十回

却説(さて)天間町(てんまゝち)なる紙屋(かみや)なりし主人(あるじ)治兵衛(ぢへゑ)なるもの
去の冬より大病(たいびやう)にてうち臥(ふ)しけるが終(つひ)にむなしく
世(よ)をさりしかバ形(かた)のごとく仏事(ぶつじ)をも果(はた)しけるに跡(あと)残

徒べき見るまでよりも親るゐ縁者のうち集ひて
く継まゐらせけるが手代小六を稚児より育くみて
めく商ひの道にも達し殊にまへ目かけみのみ似んと
貞実なるものなれば番頭にして[illegible]家名
もなづくお清と継の一決し定まりしが小六
そのよしを辞しけるに始めの辞退しけれどさく
とかくに辞しがたくやがて紙屋の家督をつぎて名を
も治兵衛とあらためて[illegible]のうち[illegible]

我（わが）も改（あらた）めて家業（かぎやう）を出精（しゆつせい）しけれバ家（いへ）又（また）[illegible]く繁昌（はんじやう）して先代（せんだい）におとらず賑（にぎ）ハしく暮（くら）しける[illegible]こそ定（さだ）まる妻（つま）子もめしぐし仲間（なかま）の人（ひと）のさそひに任（まか）せ廓（くるわ）へゐる藤本（とうえん）といふ樓（ろう）より[illegible]とうる娼妓（ぢようろう）をあげてあそびけるにまこと是（これ）天上（てんじやう）の別世界（べつせかい）と[illegible]さる楽（たのし）みのあるべしとも[illegible]をつけ[illegible]あれ色（いろ）に[illegible]方（かた）も別（べつ）[illegible]よつけ[illegible]もとつもとまへ金銀（きんぎん）の如（ごと）く[illegible]

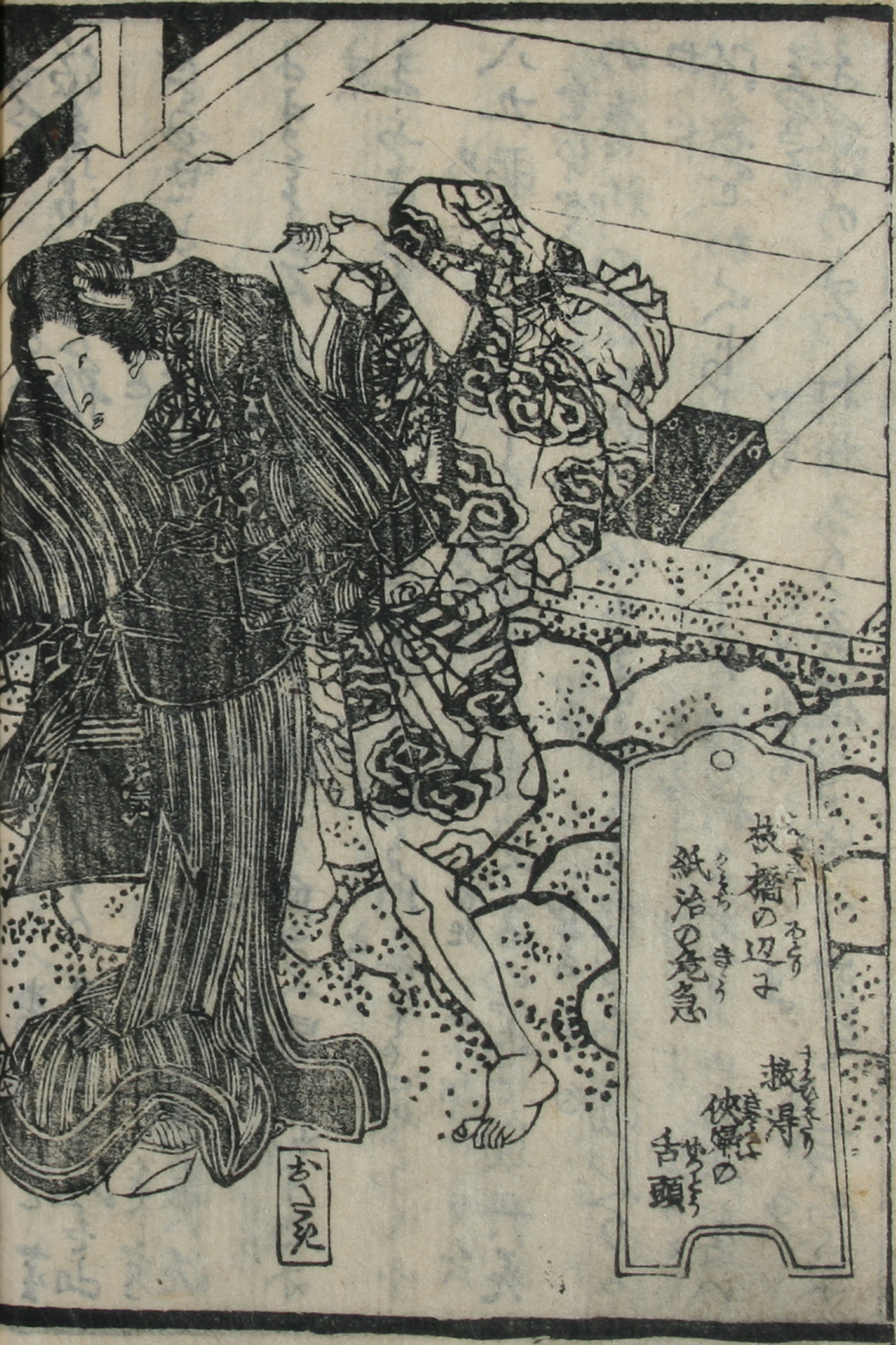
ず中よくなりて互(たがひ)に心(こゝろ)がはりせじと行末(ゆくすゑ)かけて契(ちぎ)りしが関東(あづま)え稼(かせぎ)に濁投(ぢやうちん)のめち手へ沼濱(ちくま)にありぢまぬその以前(まへかた)深川(ふかがは)の井場(くもゐ)といへる破落戸(どうらくもの)の頭(かしら)とよばれし四八(しはち)といふ雄士(をとこ)ありしがお絹(きぬ)をちらと見て深(ふか)く契(ちぎ)りてず服よ親元(おやもと)へつきつけせく借金(しやくきん)を結納(ゆひなふ)の形(かた)として請(うけ)出(だ)しべ四八(きはち)まんまと我(わが)ものとして来(く)るとびごとに暮(むつ)り賃銀(ちんぎん)あるものは器(き)の筆(まぢ)かんざし借(か)りて質(しち)といふとまりしが縫(ゑうぎ)よりの瘦(やせ)風(ぶくろ)のつえしげあとくいくらぶちまく

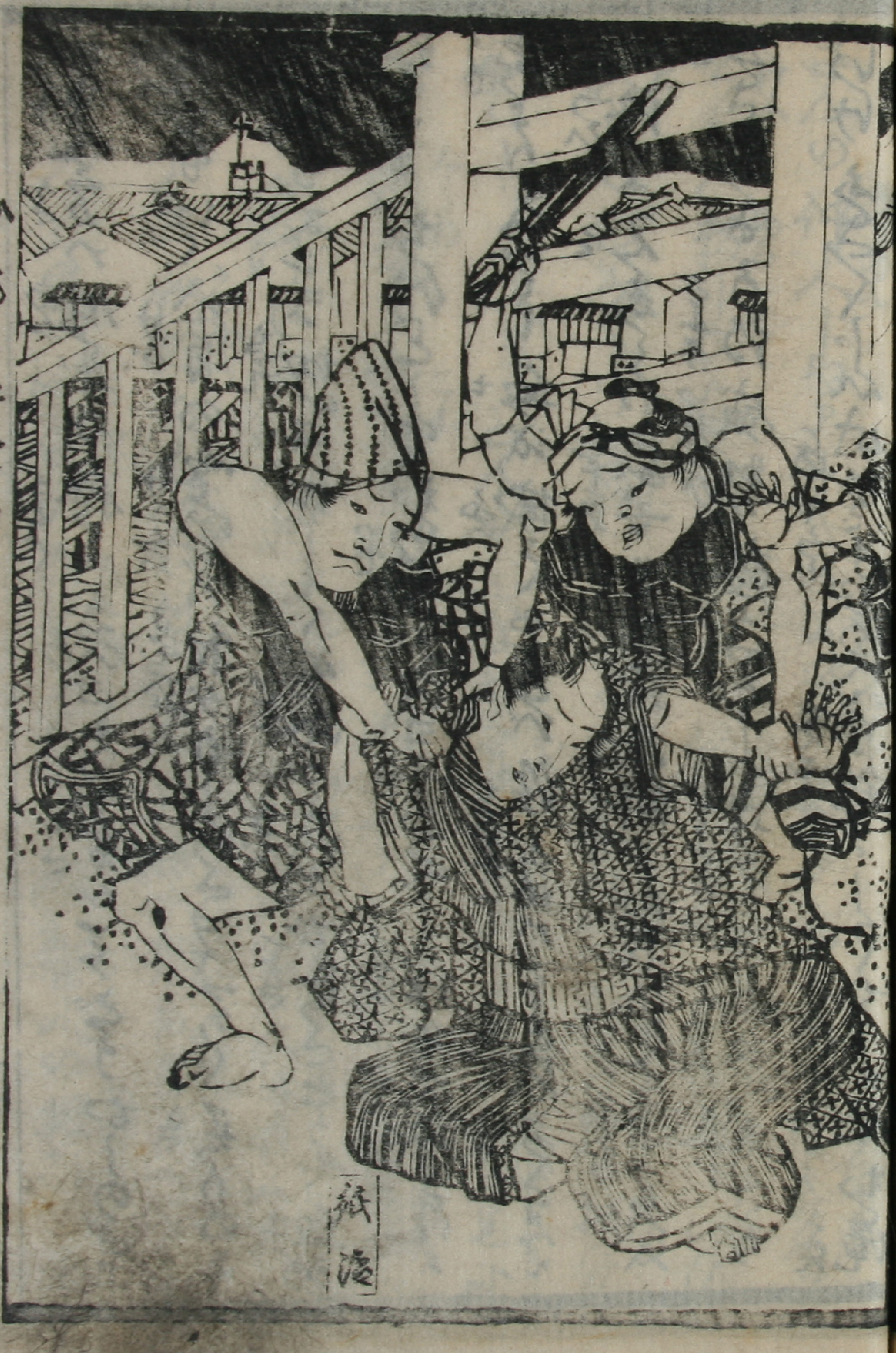
お織も今ハ後悔るしいふ心もして四八の手紙をちぎらむと思へども不分別なるまぎれつる破落戸も多くしき容易に手紙切ずして兎や角とおもひめぐり斜ならず治兵衛にたのみてこそ兄貴べかの四八と縁のまくく情もふかく金もありさてこそ治兵衛に思ひ見えそれより後の四八が来るとあるをも思ひつくぐ咎めといるでも紛らわく嬉しさ多る今報に四八を憤り手ともかくして中々までときけれバ或ハ紙屋の主人治兵衛

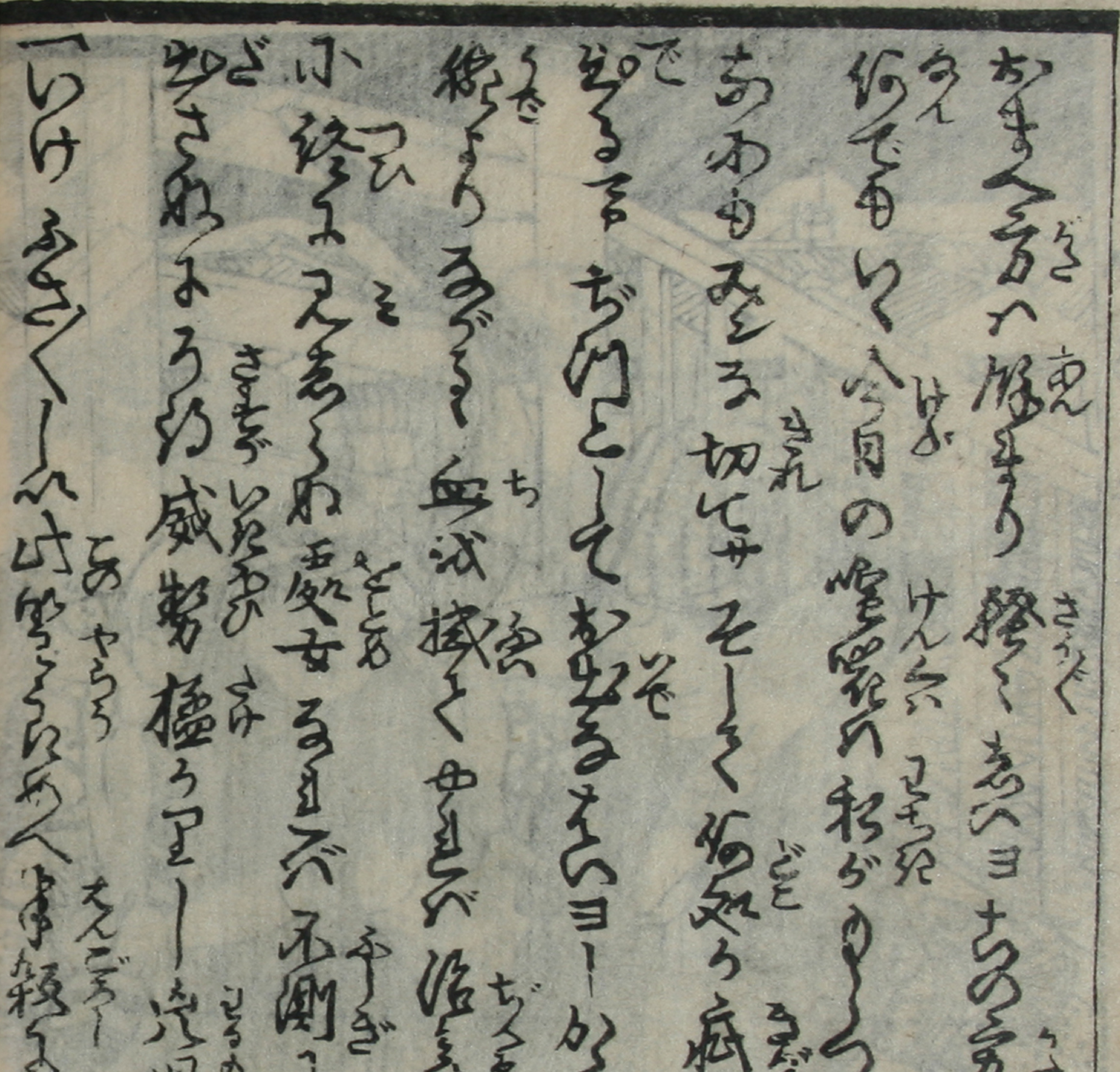
とりかはし深(ふか)く契(ちぎり)深く二世(にせ)までかけての約束(やくそく)せしと[illegible]く
[illegible]よりく[illegible]もして渠等(かれら)二人(ふたり)は愧(はぢ)[illegible]おこして[illegible]
[illegible]んと一月子分(こぶん)の破落戸(ならずもの)に五人を語(かた)らひて枝橋(えだばし)[illegible]を
彼方(あちら)此方(こちら)と徘徊(はいくわい)し[illegible]や紙治(かみぢ)の来[illegible]やと待[illegible]
の人(ひと)は[illegible]知らざるなるべしとある[illegible]紙治[illegible]へかへりの間
[illegible]く今日(けふ)も[illegible]へ行(ゆ)んと枝橋(えだばし)へ来(き)かゝりける向(むかう)
より[illegible]気(げ)の男[illegible]人来(き)かゝりて[illegible]も[illegible]
くると治兵衛(ぢへゑ)が側(そば)へ来(き)[illegible]と見えしが[illegible]くとして実[illegible]より

寒紙(こぶく)の時分喧嘩(けんくわ)じみけおもひかけ孫べ此方(こなた)へ移どる死身(み)を起して陰(よみ)んとするを前後(まへうしろ)より左右(さゆう)法身(ようしん)のあに突(つき)あたり座頭(ざとう)て神(い)くそ奴(やつ)此所(そこ)なる奴(やつ)は手毀(てうちやう)してゆるぶりトいひさす一度(いちど)に掴(つか)み法(ほう)家(ちん)は元来(もとより)乱(みだ)れ(やや)ををとこ男(を)見ては見(み)る程(あそ)見(み)れあらぬ奴(やつ)むざと酒(あや)まつて悪(ゐよ)がよしと猶(なほ)狗紙さすけ門くに上代(とぞ)法(ほ)ししと泥(どろ)にい(で)もきろびと起(そ)でに血反吐(ちへど)が渾身(こゝろち)をまくへおそべ乱(ざ)る鬢(びん)の毛(け)より羽織(はおり)着物(きもの)もむざくと切(きれ)て引離(ちぎれ)て見るあさましく悒(いぶせ)き気(け)さなあのる

治兵衛(ぢへゑ)が急難(きふなん)に喧嘩(けんくわ)よと[illegible]より集(あつま)りける人(ひと)も山(やま)をなせども諫(いさ)め[illegible]とゞむる人(ひと)もなければその[illegible]よすがもなく手足(てあし)磨(す)りて流(なが)るゝ血(ち)さへ夥(おびたゞ)しかる処(ところ)に立(たち)ふさがりける人(ひと)を押(おし)わけ入(いり)来(きた)るは年(とし)まだやうやく十八九眼(め)もとすゞしく鼻筋(はなすぢ)たかく色(いろ)さへ雪(ゆき)の冨士額(ふじびたひ)丹花(たんくわ)の唇(くちびる)柳(やなぎ)の眉(まゆ)その風俗(ふうぞく)も意気(いき)なる処女(むすめ)今(いま)湯(ゆ)がへりの浴衣(ゆかた)をかくちよつときこなし[illegible]光(ひか)るが如(ごと)き[illegible]の[illegible]打掛(うちかけ)なり[illegible]して娘(むすめ)「[illegible]


鼓橋の辺子
紙治の危急
撥得俠卑の舌頭
おこう


紙洗



おまへ方へ 勝手より 座敷（ざしき）へ ヨ あの方が 手（さゝ）ずから おしのびで
何（なん）でも にく 今日（けふ）の 見物（けんぶつ）の 衆（しゆ）が のしつけ ます 多く 存（ぞん）じます
あわれも みごと 切（きれ）ます そーっと 胴体（どうたい）が 出来（でき） ましたる 血（ち）が
出（で）ます 所 血門として おびたゞしき（そ） ヨーかへし 陰衣（?）を 除 畜生（ちくしやう）道が
歌（うた）よりも あるでぞ 血（ち）池 地獄（?）も 再（さい）び 畜生（ちくしやう）道へ さしかゝる
終（つひ）を 見える 悪（あく）女 まよひ 不義（ふぎ）に おちて てんぢく（?）[illegible]
ござります 様々（さまざま）の 色々（いろいろ）の 責（せめ） 極まり 苦（くるしめ）の 見（み）ども へ 地（ぢ）へ おちいり
「いけ ふしぎ し 此所 あやらう（?） 閻魔（えんごろ）[illegible] しまする のぞ も滝（?）

さんの仲人じやアまさか世間せまぢやアあるめへ野郎めら立

はよ今日は殺してくれるぞ覚悟を待気をつけや是トいひ

まな殺してどろ〳〵と何処へか逃てゆくお浅は治兵衛を扶け

あとにしおとこれへ一寸とんご目よお家のあるじ何ぞ是ぶ

みさ後のこ此猫ゝなる者ハ志せんけんぞ悪場湯へ

あん縫くさ川ぞり知らぬぞ何方も病ひハなきハませんかへ下

ゆきしき奴抱ころゆるねど治兵衛は朔代がくしく

ふひげなき途中の難義見るもかねおまへの扱で激

すべて身の穢といふ錢お瀧ハ芫ことし宅へお
まへさんハ慈悲すくても親ハ親ゆへ知れた事ヨ私の
宅ハ見向ふも貧施の出来る所ござりますとへお出る
まひトて錢引さえて雑ぐるま畜生も斯ふて給まひけ
まへハ徳兵へもきこへく角もせぶやと思ひもきて見ん
れバ仁田里屋といふ船宿まて家ハ下女がなひとう
留守しくまうしごとまでと見て経出まへバ浴衣をもらう
云くおくへと畜生を捕まひ言へゑんと痛めさせぞよ

ござりませぬ人 誠(まこと)にまアいて 苦労(くらう)をなさるヨ アノおかさんや
おまへ 私(わたくし)の着物(きもの)二ッ三ッ出(だ)して おくれそして子盥(こだらい)へ湯(ゆ)
と 壺(つぼ)の温湯(ぬるゆ)汲(くん)で来(き)なまア おまへにや足(あし)お洗(あら)ハせ申
うるさいヨ 治「イヤ 最(もう)かまはずと お薫(くん)さんる動(みつ)して まいるまで
く 宜(よろ)しうござりまする 私(わたくし)は何にもとりの 息(いき)銭(ぜに)つかまつて 物(もの)がたい(ごと)に
し 心底(しんそこ)遠(とほ)い娘(むすめ)うさいぞり 役(やく)は目(め)ぐり 縁(えん)がイヤとんだ見(み)られるおそれ
中々さ 是(これ)をそうと おまへ六ッ分さ 恐(おそろ)しの わ女(をんな)だ と云(いひ)ても
でアノ手代(てだい)が 手紙(てがみ)引(ひ)いた(ない)実(じつ)があつても 人がまくどうしての闇(やみ)

縁（えん）ぐみうきえぬぞり分ら殺人（ころ）見（こゝ）ろ（?）ぞらが私（わたくし）が大悪女房（おゝあし）の やうでござりますがわく人二そろふくは遊（?）ぞござりませんア人（ひと）町（まち）の子浅草（あさくさ）川の本場（うしぞ）で四八（さうはち）さんといふ人（ひと）の子分（こぶん）でござりまする のさその四八（さう）さんといふ人（ひと）も私（わたくし）の親（ちゝ）よりよく世話（せわ）をみてくれた人（ひと）で ござりまするそれで私（わたくし）のいふことをば聞（きい）てくださりませぬのでござりますヨ何（なに） か喧嘩（けんくわ）ばかりいたしますから人（ひと）の間（あひだ）が悪（あし）くて財身（あつそ）をかまへ さん夫（それ）から四八（さう）さんの子分（こぶん）でござりますそれまで強（みせん）で（ひとり）はいけぬので（どう）ござ ますれば其（その）着物（きもの）を質（しち）に置（お）きまして そして酒（どう）ぶ流（み）のてゑをと申ますゐ

ころがふりまうちマアとまい紙着(き)でおはなみへハヨトまづ私(わし)

しき結城(ゆふき)の小袖(こそで)下ハ比翼(ひよく)のまもう無垢(むく)いろんなどあるた

らへ懐(ふところ)へ気(き)のかまハで筑前(ちくぜん)博多(?)さハこまり筑前(ちくぜん)博(?)ハ

祝(?)さらえの毒(どく)てうて綸子(りんず)緒(おくさい)すれども笑(わら)いまいぞれ伊達(だて)そ

しろく帯(おび)もおやあるさい此ごろ女の着物(きもの)ハ気(き)がかうござい

ますぞろ総(そう)てまア生得(しやうとく)此せつハ爺(おやぢ)ハ野郎(やらう)とかく来(き)ます

てまがりござ六月も元(もと)ハありやアありませんお私(わたし)へ手(て)ごけ旦

ど父親(ちやん)もキウい年(とし)ハ寄(よ)って居ても此様子(やうす)煎茶(せんちや)を茶(ちや)すって居

ほんとのごうたいまへさんにお誂（あつら）へなさる着物（きもの）もありませんな。是（これ）

で人（ひと）の見（み）るに恥（はぢ）よお出（いで）なさい。形（なり）がどうもしらくあげませうト

そこらの櫛箱（くしばこ）を出して鏡（きやう）紙をちらひて治兵衛（ぢへゑ）が髪（かみ）を結（ゆひ）

座（ざ）し手習（てならひ）紙探（さが）せなどするに、絵（ゑ）と見（み）て廣蓋（ひろぶた）よ二冊物

とのせて店（みせ）へあけへ。下女（げぢよ）のおきさんハ清（いけ）とって治兵衛（ぢへゑ）が好（すき）

あちら来（きて）るおまへさんは悠長（ゆうちやう）に「ア何（なに）もありませんけれど一（ひと）つお

わかんなさいヨ。そうなると気（き）が晴（はれ）なさらへ。治へこゆや〳〵どくも

お気（き）の毒（どく）だ子。先刻（さつき）からしていろ〳〵とお世話（せわ）よするのとあらば

私（わつち）の身（み）うへこそお前（まへ）でもまる笹（なが）是（これ）じやア却（かへつ）てあぢらく
とやくざまで先刻（さつき）の隆（さへ）ぎで紙（かみ）入（いれ）を無（なく）しゑへ日や大（まう）けで
ございますからへ定（さだ）めて大事（だいじ）な売附（うりつけ）でも注〈十二 売附（うりつけ）の了簡（れうけん）ハ
ありませんが今（いま）の世（ちよと）でござりゑへ今（いま）ではありませんよくござりまさ
ゆるみサア一ツ（ひと）お題（えじ）がるさいト〽楽（らく）めるろの是非（ぜひ）あるも治兵衛（ぢへゑ）
盃（さかづき）をとりあげて二ツ三（み）ツ取（とり）るとし注〈下キニ 其（それ）大きに酔（よひ）ましたアノ
近所（きんじよ）でちよ川と好（この）む人（ひと）ハありませんめへか是へ役（うちつき）お門くさ
物（もの）でもありの寄（よせ）せう ゑへ隨分（ずいぶん）人（ひと）もありませんけれどもよふ

ござりまするおまへさん今夜（えや）辰巳（たつみ）へ入らしつて御覧（ごらうじ）まし
とうせお泊（とまり）になりまする　治「どうしても其地（そこ）へ[illegible]さ
あとへござりやせん　[illegible]よく嘘（うそ）ばかりおつしやるヨ[illegible]へねへ
其様（そん）なことなら[illegible]ると[illegible]しやせんト[illegible]
ら見てくれる流石（さすが）まで[illegible]めぐりけり

花廼志満臺二編巻之中終

落丁

落丁